

「可視化」による意識レベルの強化
富加町立富加小学校

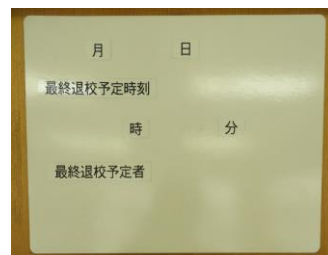
1. 目標

これまでの工夫や努力により、本校の毎月の時間外勤務時間の平均は、ほぼ毎月 45 時間以下である。それ故、セルフチェックの結果も、C以下の評価はほとんどなかった。早期退勤日（水曜日・8のつく日）の意識化の項目に一部C評価が見られたことから、多忙化解消に向けた意識レベルの強化に取り組んだ。

2. 実践の内容

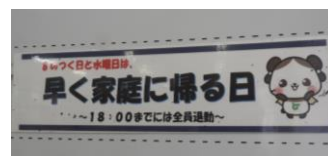
(1) 目標最終退勤時刻の可視化【写真上段】

これまでは、管理職からの働きかけにとどまっていた。そこで、児童の下校後に、日直が職員に最終退校予定者と最終退校予定時刻を確認し、ホワイトボードに明示することで意識化を図った。



(2) 「早期退勤日」の可視化【写真中段】

早期退勤日（水曜日・8のつく日）を、行事予定や週報、職員室の予定黒板に明示することで意識化を図った。



(3) セルフチャレンジ“月に1日は定時退勤”【写真下段】

1ヶ月スパンで見通しをもって仕事をし、月に1日は定時退勤できるよう働きかけた。義務化はしないが、管理職がタイムカードを確認し、実行できた職員を把握した。



3. 評価結果

(1) 時間外勤務時間の平均（単位：時間）

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月
44:52	44:41	49:50	29:56	37:06	38:02	42:28	34:47

(2) 1日以上定時退勤日があった職員数（単位：人）

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月
6	15	14	17	10	19	5	17

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・退勤予定時刻を明確にすることで、優先順位を付けたり、分担したりして効率的に仕事に取り組む意識が高まった。その結果、概ね45時間の基準を達成することができている。
- ・順位付けや分担の意識が高まったことと合わせ、出張からの直帰を推奨したり、学校行事等の際に一斉退校を呼び掛けたりすることで、定時退勤を実現できている。これが、心身共に健康で、笑顔で子どもと向き合えることにつながっている。

(2) 課題

- ・時間外勤務時間の多い職員には、引き続き組織力で軽減を図っていくとともに、定期的にメンタルヘルスチェックをして、心身の健康状態を把握していく。